

# 妻沼滑空場の運航状況

財団法人 日本学生航空連盟

# 本日の内容

1. 自己紹介
2. 日本学生航空連盟について
3. 妻沼滑空場情報
4. 飛行内容
5. その他

# 1. 自己紹介

1. 氏名: 中村 暢宏 (なかむら のぶひろ)

2. 役職: 妻沼訓練所所長

3. 略歴: 1972年(昭和47年)から妻沼滑空場で滑空活動  
日本学生航空連盟 教育訓練部長  
日本滑空協会 理事

3. 連絡先: 事務局(東京) 03-5540-7441  
妻沼訓練所 048-588-0687  
携帯(中村) 090-5589-4229

## 2. 日本学生航空連盟

名称	財団法人 日本学生航空連盟
所在地	東京都中央区築地五丁目3番2号 朝日新聞東京本社内
加盟校	59校(57大学、1各種学校、1高校)
学生数	約700人
活動内容	1930年創立、大学の課外活動として 当初は飛行機で活動、5年後に滑空機による活動が開始された。



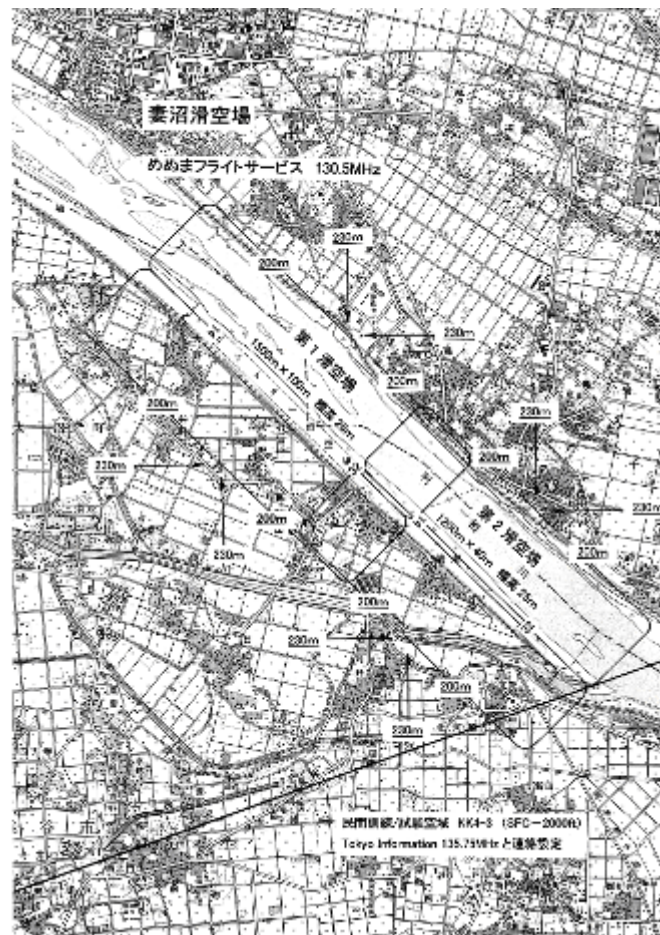
### 3. 妻沼滑空場情報

- 3-1. 管理者 (財)日本学生航空連盟
- 3-2. 連絡先 東京都中央区築地 5-3-2  
朝日新聞東京本社内
- 3-3. 航空無線局 呼出名称: めぬまフライトサービス  
周波数 : 130.5MHz
- 3-4. 開設 1963年妻沼第一滑空場開設、  
1970年妻沼第二滑走路開設、
- 3-5. 所在地 埼玉県熊谷市葛和田・俵瀬地先  
(利根川右岸河川敷)
- 3-6. 緯度・経度 北緯36° 12'41" 東経139° 25'08"

# 6. 緯度・経度 北緯36° 12'41" 東経139° 25'08"



# 妻沼滑空場 場周経路





## 3. 妻沼滑空場情報

3-7. 飛行内容: 18669回 (2009年実績)

- ・ウインチ曳航・航空機曳航
- ・操縦練習許可書による操縦練習
- ・クロスカントリートレーニング
- ・異常姿勢からの回復 (91条曲技申請)
- ・グライダー競技会

3-8. 特徴: 第一滑空場の長さ1500m

第二滑空場の長さ1230m

3-9. 訓練所: 埼玉県熊谷市葛和田1975

TEL. 048-588-0697、FAX048-567-1082

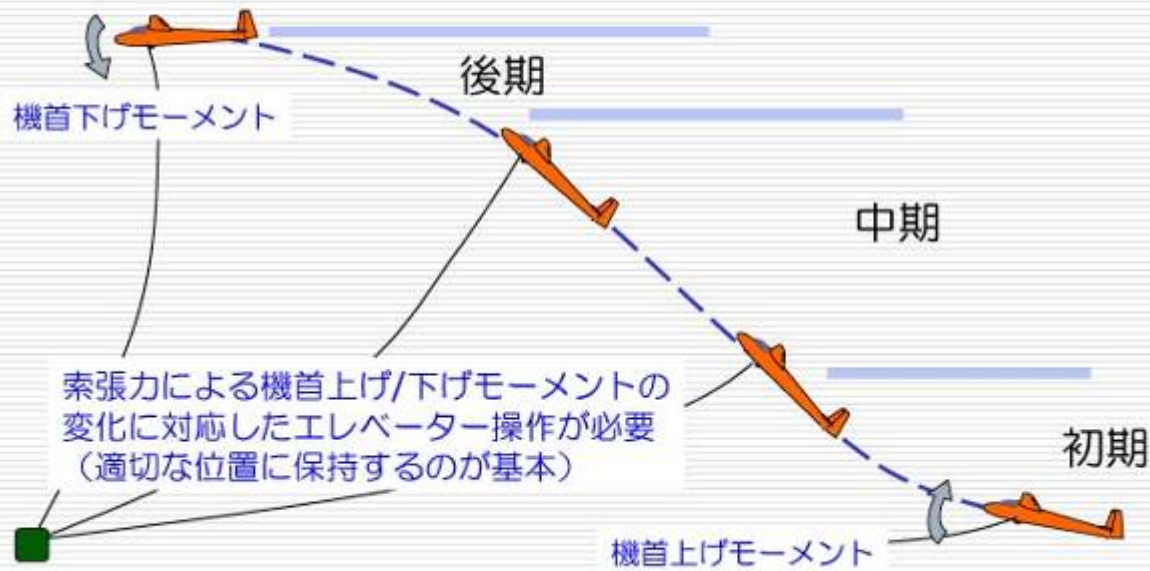
# 曳航方法

- ウインチ曳航：曳航索（5mmの鋼索・超強度ポリエチレン）を約300馬力エンジンにドラムを付けて約100km/hの速さで巻き取り高度を獲得する方法
- 航空機曳航：陸上単発機に約60mのナイロンロープで曳航する方法

# ウィンチ曳航

## ウィンチ曳航の力学

### 曳航径路の概要



## 4. 飛行内容(平日)

### ○平日の操縦練習飛行

空域：半径9Km以内

高度：3,000ft以下(MSL)

ただし、横田基地から  
半径54km以内は  
2,000ft以下(民間試験  
訓練空域 KK4-3を  
除く)

法60・92条但し書き申請



# 4. 飛行内容(祝祭日)

○祝祭日の操縦練習飛行

空域：半径9Km以内

高度：5,000ft以下(MSL)  
ただし、横田基地から半径54km以内は4,000ft以下(民間試験訓練空域 KK4-3を除く)

法60・92条但し書き申請



# 2010年度グライダーの競技飛行

- |          |                        |                 |     |
|----------|------------------------|-----------------|-----|
| (1) 第14回 | 原田覚一郎杯                 | 2010年8月10日～18日  | B空域 |
| (2) 第13回 | 東京六大学対抗グライダー競技会        | 2010年8月20日～28日  | B空域 |
| (3)      | 競技会強化訓練期間              | 2010年12月4日～10日  | B空域 |
| (4) 第26回 | 関東学生グライダー競技会           | 2010年12月17日～23日 | B空域 |
| (5) 第15回 | 法政大学・立教大学対抗グライダー競技会    | 2011年2月1日～7日    | B空域 |
| (6) 第51回 | 全日本学生グライダー競技選手権大会      | 2011年3月6日～13日   | A空域 |
| (7) 第40回 | 早稲田大学・慶応義塾大学対抗グライダー競技会 | 2011年3月15日～21日  | A空域 |
| (8) 第35回 | 中央大学・日本大学対抗グライダー競技会    | 2011年3月22日～27日  | A空域 |
| (9) 第44回 | 名古屋大学・大阪大学対抗グライダー競技会   | 2011年3月30日～4月2日 | B空域 |

# 競技飛行 A空域

## ◇A 空域

次の点を直線で結んで囲まれた空域は、高度 6,000ft 以下

(1)361611N/1391848E、(2)362111N/1392648E、(3)361611N/1393848E、(4)360811N/1392748E

に囲まれた空域。但し、(3)361611N/1393848E、(5)361518N/1393730E、(6)361706N/1393643E に囲まれた空域は高度 4,000ftMSL 未満







# クロスカントリートレーニング飛行





## 5. その他（滑空機は何をしているの？）

- 滑空機は、上昇気流が燃料です。そのために余り直線飛行はしません。太陽の日射で温められた空気が上昇気流のトリガーとなります。そのために蓄熱のしやすい場所を選定して飛行します。
- 滑空機は、対地的に滑空比の良い速度で飛行します。気流の上下に合わせてクルージングのとき40～80ノット位の範囲で速度変化します。

## 5. その他（滑空機に対する注意）

- 滑空場周辺では、特にウインチ曳航を実施している滑空場上空は大変危険です。数十秒の曳航時間で2000ft(600m)の高度を獲得します。また、上空からは曳航索の視認は非常に困難です。
- 滑空機の色はFRPの機体が多くなり、樹脂を紫外線から守るために白い色の機体が多い。
- 滑空場は多くの場合河川敷に有ります。視程の悪いときは川沿いに飛行する航空機が多く有ります。滑空機に注意！